

予防接種

先進諸国と比べ、公的に接種するワクチンの種類が少ない、いわゆる「ワクチンギャップ問題」の解消や予防接種制度の幅広い見直しが求められていたことから、今般、予防接種法の改正がなされ、平成25(2013)年4月から施行されています。

この改正により、12年ぶりに、子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの3ワクチンによる予防接種が定期接種に追加されるとともに、制度面では、国による「予防接種基本計画」の策定、副反応報告制度の法定化などが新たな項目として規定されました。

改正に先立ち、国による「子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業」を契機に、多くの自治体が上述の3ワクチンによる任意接種に対する公費助成を開始していたことから、副反応の発生状況などに関する知見も集積されてきています。併せて、接種するワクチンの種類と接種回数も大幅に増え、特に、乳幼児期の接種スケジュールが過密となり、保健医療の現場では、予防接種に関する情報提供、および相談体制の充実強化がますます重要となっています。

そこで本特集では、長い歴史を持つ予防接種と公衆衛生の原点を振り返りつつ、法改正の概要や新たに定期接種の対象となった3ワクチンに関する話題など、予防接種を取り巻く現状と最近の知見などについて、専門の立場から解説していただくことにしました。



イラストレーション：ペドロ山下